

第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第9回） 議事要旨

日 時：令和3年1月14日（木）午後5時～7時

場 所：多摩市役所 401 会議室

出席者：

笹井 宏益委員（委員長）
梅澤 佳子委員（副委員長）
青木 ひとみ委員
野口 享子委員
五十嵐 亮委員
小泉 雅子委員
小林 攻洋委員
松本 俊雄委員
木村 治生委員
岡村 志穂委員
喜多 尚美委員

欠席者：なし

傍聴者：なし

<会議次第>

1. 開会
2. 議事
 - (1) 「第4次多摩市生涯学習推進計画（素案）」に関するパブリックコメントの実施結果について
 - (2) 第4次多摩市生涯学習推進計画の原案について
3. その他
4. 閉会

<配布資料>

- ・資料1 「第4次多摩市生涯学習推進計画（素案）」に寄せられたパブリックコメントについて
- ・資料2 第4次多摩市生涯学習推進計画素案検討まとめ
- ・資料3 第4次多摩市生涯学習推進計画【原案】
- ・資料4 第4次多摩市生涯学習推進計画【概要版】案
- ・参考資料 第3次多摩市生涯学習推進計画
- ・参考資料 第五次多摩市総合計画第3期基本計画

1. 開会

(委員長よりあいさつ)

2. 議事

(1) 「第4次多摩市生涯学習推進計画(素案)」に関するパブリックコメントの実施結果について

【事務局】

(資料1について説明)

【委員長】

この件につきましてご質問・ご意見等はございますか。

【委員】

公民館に他のパブリックコメントの書類が置かれていましたが、あまり目立っていませんでした。また、素案をその場で閲覧しないといけないのであれば、じっくり読み込めるのは時間に余裕がある方に限られてしまうと感じました。

【委員長】

インターネットで見ることできますね。

【委員】

若い方はインターネットで確認するのが当たり前になっていますが、高齢の方はそうではありません。その辺り考えていただければと思います。

【委員長】

今後の検討課題ということでお願いします。

【委員】

資料にある「本編」とは原案のことですか。だとすればページ番号が原案と合いません。

【事務局】

こちらは素案のページ番号で、原案とは1ページずつずれる形になります。

(2) 第4次多摩市生涯学習推進計画の原案について

【事務局】

(資料2、3について説明)

【委員長】

前回からの修正点を中心にご説明をいただきました。ご意見等はございますか。

【委員】

資料3の3ページに「市民一人ひとりの多種多様な学びの活動が、一人ひとりの生きがいと充実という『実』となったり」とありますが、実とならない場合もあるような書き方なので、「実となり」と断言してはどうでしょうか。

【委員】

日本語としては「『実』を結び」の方が適切かと思えます。

【事務局】

検討させていただきます。

【委員】

資料3の72ページ、用語解説に「協働」の説明がありますが、「複数の主体が」と主語が入った方が良いと思えます。

【委員長】

「同じ目標に向かい、複数の主体が対等な立場で役割分担しながら」とした方が良いとのご意見ですね。事務局としては、主語を明示することによろしいですか。

【事務局】

はい。

【副委員長】

目指す方向4「学びあいと協働でかがやくまち」の推進項目9「市民協働の機会づくり」の個別施策⑩に「各種イベント等の企画・運営への市民参加の推進」とありますが、“イベント”よりも“事業”、“市民参加”ではなく“市民参画”の方が良いと思えます。多摩市としては、参加するだけでなく、ともにつくり上げていくところを目指していますし、参画の方がより重みが出るのではないのでしょうか。

【委員】

“イベント”では軽い感じがします。

【事務局】

資料3の29ページですが、“イベント”と“参加”についてはこのページの随所に出てきます。内容に応じて適切なものがあると思えますので、冒頭の説明書きは“イベント”のまま、個別施策⑩のタイトルと説明書きは“事業等”に変える、参加の方もいれば参画の方もいるということでここは“参加”のまま、個別施策⑩のタイトルと説明書きは“参画”に変える、事業例の1つ目は“イベント”のまま、2つ目は文化祭ですので“参加”のまま、でいかがでしょうか。

【副委員長】

ご理解いただき、うれしく思います。使い分けは難しいかもしれませんが事務局にお任せします。

【委員長】

“イベント”には行事の意味があり、幅広い感じがします。その中で計画性や組織性のあるものが“事業”だと理解します。“参加”はそこに一定時間いておしまいですが、“参画”は準備を手伝う、あるいは企画段階からとコミットの度合いが強い、という理解でよろしいですね。あとは事務局にお任せということですので、よろしくお願ひします。

【委員】

資料3の42ページに“R”と出てきているのは令和のことだと思いますが、分かりにくいです。

【事務局】

令和表記か西暦表記か、コラムの所管課と調整します。

【委員長】

令和に直す方が良いと思います。

【事務局】

他のページも確認し、修正いたします。

【事務局】

随所に小人のイラストを配置しています。表紙は、現在イラストレーターと検討中で、概要版の可愛いテイストを基本にしたいと思います。出来次第みなさまにご連絡いたしますが、デザイン等は事務局に一任していただければと思います。

今後のスケジュールですが、資料2の下部のとおり、1月27日の専門委員会（課長級会議）を経て、最終的には2月9日の生涯学習推進本部（部長級会議）にて原案を決定します。その際には、策定委員会での検討内容報告ということで、委員長に代表でご出席いただきたいと思います。その後議会への報告が終わりましたら、公式ホームページ及びたま広報で公表いたします。

3. その他

【事務局】

本来であれば昨年10月に仕上がっていたはずですが、コロナ禍の中、今年まで策定委員会にご参画いただき本当にありがとうございました。活発なご意見・ご示唆を頂戴しましたことに深く感謝しております。教育委員会や学びあい育ちあい推進審議会に報告したところ、非常に良い計画と評価され、実施計画として推進することにも期待されています。

【委員長】

本日が最後の策定委員会ですので、お一人ずつコメント等いただければと思います。

【委員】

事務局の方々もご苦労さまでした。ホッとしていられることだと思います。委員のみなさまは、割と個性的で様々なジャンルで頑張っておられる方が多く、とても刺激になりました。私はこれまでいろいろな会議に参加しており、中には黙って説明だけ聞いているような会議もあったのですが、この委員会では活発に意見が飛び交ったので良かったと思います。文化の件を強硬に押せなかったことに忸怩たる思いがありますが、随分良くなったと感じました。昔は学習というと何かを勉強することだったのですが今は生活に密着したもので、それも実は大事だと思いました。

【委員】

委員会に出席するだけでとても勉強になりました。このようなみなさんの話し合いによって世の中は計画されているのだと初めて感じました。当初は生涯学習といっても障がい者は参加できない場合もあると思っていたのですが、コロナによるZOOMの活用などで誰もが参加できると気付きましたし、自分でもいろいろ考えられるようになったのはこの委員に就任させていただいたおかげと感謝しています。

【委員】

行政計画に携わるのは初めてでしたし、この委員会でのいろいろな世代の方の様々なお考えを聞くこと

ができ、非常に勉強になりました。途中でコロナの影響もありましたが計画自体に大きな変更はなく、骨太な計画だと感じております。この計画を自分自身の地域の活動に生かしていければと思います。

【委員】

私はママ友サークル「タマフルズ」に所属し、子育て世代の代表として参画しました。正直私は当初生涯学習にそれほど関心がなかったのですが、このくらいの温度の人の代表として参画することに意味があると自分に言い聞かせながら参画しました。私は毎年“楽しく生きる”を目標にしているのですが、それは生涯学習そのものだと感じています。どうすれば多摩市の一人ひとりが幸せに楽しく生きていけるのかに微力ながら携われたと思うと、うれしい気持ちでいっぱいです。また、委員長と事務局の進行が素晴らしく誰が何を言っても否定せずすべて受け止めてくれるから、私も含めてみなさん自由に発言できたと思いました。そういう意味でも勉強になった足掛け3年でした。

【委員】

資料3の原案7ページの「学びを通じて人と人がふれあい、そのふれあいから生まれる様々な発見や取り組みが地域づくりの出発点となり、地域が活性化していく」という文章はまさにそのとおりです。行政だけに任せるのではなく住民一人ひとりが地域を活性化させていくことが大事で、それがゴールだと思っています。

【委員】

年を取っても暮らしを楽しもうということで、自治会でもいろいろなイベントをしたいのですが、このご時世のためできない歯がゆさがあります。焦っても仕方がないので、朝夕のお散歩だけでも忘れないでください、道端で人に会ったらエチケットを守りつつ必ず会話をしてください、それが介護予防につながりますと言い回っています。今まで検討してきた生涯学習のノウハウを生かし、自治会に展開できるよう頑張っていきたいと思います。

【委員】

委員会の回を重ねるごとにブラッシュアップされて良い計画になっていったと感じています。イラストについての議論も白熱しましたが可愛くて素敵なイラストに仕上がりに、こうして形になっていくのだと実感しました。最初の委員会で副市長が東京オリンピックの期間中、多摩市がアイスランドのホストタウンになることが決定したと言われた記憶がありますが、ここ1～2年で状況が劇的に変化し、ますます学びが重要になってきたと感じています。学び方も内容も多様になる中、この生涯学習推進計画を具現化、実現化していくことが重要だと思います。今後は計画に魂を込めて運用していくという、ここからが本番だと感じています。最後に、計画をまとめていただいた委員長、副委員長にお礼を申し上げます。

【委員】

世代を超えて一人ひとりとふれあう中、今まで知らなかった価値や見方に気付くことができ、改めて人と人のふれあいはどんな時代でも大事だと思いました。市はいろいろなものを提供していると知りましたが、地域住民に届かなければ、存在しないのと同じです。私が今取り組んでいるのは、まず知ってもらいそのうえで取捨選択できる社会をつくることです。また、共に生きる“共育”が大事だと思います。何かを与える、教えるではなく、いるだけで学べる場が必要だと思いますが、今はそれがありません。

コンテンツはなく、“共育”の場、機会を提供しようと思って現在活動しています。人と人の隔たりがなくなれば本当の意味でSDGsが達成されると思います。

【委員】

生涯学習に非常に興味があり、今月、産業カウンセラーの試験を受ける予定です。今は居場所や心の拠りどころのない方が多く、そういう方たちを支援できる場をつくれればと思っています。その根本的なものが“認め合い”です。一人ひとりの人格を尊重してお話を拝聴することで、心を開いてください。今後はカウンセラーという形でそういう方々の支援ができればと思っています。また、来月から地域コンシェルジュとして、多摩市の良いところをみなさんに伝える取り組みを始めます。情報があればよろしくお願ひします。みなさまと出会えたことで大変勉強になり、有り難く思っています。

【副委員長】

事務局と委員がチームとなりフラットに議論できたこともうれしく感じています。この委員会そのものが多世代交流で相互理解を深めながら内容を検討することができたと思います。策定期間中に新型コロナウイルス感染症の問題が発生したわけですが、今後の課題に対応できる計画になっていると思います。策定後も引き続き計画を伝えていく役割があると思っています。

【委員長】

今回、お話をいただいた際、第3次計画策定のときに委員長をした経験から多摩市の職員は前向きに取り組んでくれる印象があったので二つ返事で引き受けました。良い計画になったとうれしく感じますが、それは委員とコンサルタントを含む事務局スタッフのおかげです。結構突き放して厳しいことも言いましたが、それに対応して良い案を出してくれました。有能なメンバーに恵まれて幸運だったと思っています。生涯学習のことを教科書に書きたいとずっと願っていたので、計画の公表後にテキストとして学生たちに伝えていく予定です。また、いくら良いものをつくってもそれが人に伝わらなければ意味がないというのはそのとおりで、まずは伝えることが大事だと思います。

以上をもちまして本日の第9回策定委員会を終了させていただきます。みなさん、どうもありがとうございました。

4. 閉会

終了